

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016 年 8 月 24 日

東京大学での所属学部・研究科等:	人文社会系研究科	学年(プログラム開始時):	修士2
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	チリ大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
(✓)1.研究職 ()2.専門職(医師・法曹・会計士等) ()3.公務員 ()4.非営利団体 ()5.民間企業(業界:) ()6.起業 ()7.その他()			
派遣先大学の概要			
チリの国立大学。学生数も多く、チリの大統領をはじめ歴史的に重要な人物を数多く輩出した名門大学。			
留学した動機			
語学力の向上、及び修士論文作成のため。			
留学の時期など			
①留学前の本学での修学状況:	2015 年	修士2 年生の	夏 学期まで履修
②留学中の学籍:	留学		
③留学期間等:	2015 年	7 月～	2016 年 7 月
	年時に出発		
④留学後の授業履修:	2016 年	修士2 年生の	冬 学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2016 年	修士2 年生の	8 月頃に
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		22 単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位		0 単位
	留学後の取得(予定)単位		8 単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014 年	4 月入学	2017 年 3 月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	3 年		0 ヶ月間
⑨留学時期を決めた理由:			
東京大学の修士学生として語学能力の不足を強く感じ、また自身の修士論文において現地の学生や教授との交流が非常に意義あるものだと感じたため。			
留学の準備			
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)			

チリ大学は全体的に手続きやレスポンスが遅く、またwebサイトに記載なく実際の手続き方法が変更されることが多々あるため、常にメールや国際交流課の方を通じて連絡をとりながら、早めに手続きを行うことが望ましい。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザの申請から発給まではスムーズにいくが、必要な書類が複数あるため、1カ月ほど前から手続きを行うことが望ましい。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特に必要ない。現地ですっかりとした医療も受けることができる。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学のプログラムで加入を義務付けられた保険のみ加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学届の提出。また、修士論文作成や提出期間の遅れのため、担当の先生方と綿密なやり取りを行ったうえで出発した。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

チリ大学より必要とされたスペイン語B1レベルの語学力を身に付けて出発したが、仮に不足している場合でもしっかりとしたフォローがあったため、問題ないと感じた。しかし、基本的に英語は通じないため、最低限基礎的なスペイン語の能力は必要だと思われる。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

とにかくチリ大学ではストライキが頻発する。そのため日本で立てていた計画などが大幅に変更されることが多々あるため、その点に関しては臨機応変に対応できるようにするべきである。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
literatura chilena moderna	12				
novela hispanoamerica y chilena	8				
literatura chilena contemporanea	12				

español (nivel intermedio)	12			
español(nivel post intermedio)	12			
②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)				
基本的に教授が講義し、学生がそれを聴講するというスタイル。また、各自学生が発表し、それをたたき台としたディスカッション形式の授業。				
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など				
語学の授業と合わせて、2-3科目。だが、1科目が週約3-4.5時間ほどあるため、東大の授業に換算すると8科目程度の量となる。				
④学習・研究面でのアドバイス				
積極的に教授に相談すること				
⑤語学面での苦勞・アドバイス等				
スペイン語が非常に独特でかなり苦勞した。文学という分野もあり、恥ずかしながら前期では授業について行けず単位取得できない科目もあった。とにかく早く慣れること。				
生活について				
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)				
ホームステイ。大学からの提供はなく、現地の知り合いを通じて見つけた。ただ、今後大学よりそういったホームステイ先の紹介をするためのシステムを整えていくという話もあった。				
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)				
非常に過ごしやすいが、地震が多い。食事はあまりおいしくなくバリエーションもないため、自炊できる方がよい。また、海外送金に関しては近年自身の現地口座を持つことが困難になっているため、基本的にクレジットカードか国際バンクから引き出していた。				
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)				
度々ストライキやデモが生じるため、そういったところには近づかないことを心掛けた				
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)				
・毎月の生活費とその内訳				
8万円(ホームステイ代6万、交際費1万、食費1万)				
・留学に要した費用総額とその内訳				

120万ほど(生活費、旅費、現地で購入した本などの勉強費用)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

日本学生支援機構(JASSO)平成27年度海外留学支援制度(協定派遣)奨学金

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

ハイチの難民ボランティア活動、地元のサッカークラブへの参加など

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

基本的に充実していると思われる

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

非常に良かったが、PC環境に関しては学部による。文学部などは使用するためには煩雑な手続きが必要であった。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

海外で働くことも考えるようになった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

現地で行われている海外学生向けのセミナーやボランティア活動などに積極的に参加した。また、日本企業から現地に派遣されている方々と交流を持ち、就職活動のノウハウを学ぶことができた。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:)
()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:)
()6.起業(分野:) ()7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

自分自身の未熟さを痛感した。特に前期は単位取得がままならないほど現地の生活に慣れず、非常に苦勞した。そうした苦勞や経験は自分の大きな財産になると感じる。

②留学後の予定

博士課程に進学を考えている。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

「グローバル」という言葉に惑わされないこと。その国の文化などに慣れるかどうかは本当に人それぞれで、上手く行く人もいれば行かない人もいる。大切なことは留学して成功することではなく、失敗することも含めて憶せずにその世界に飛び込み、体験することだと思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。